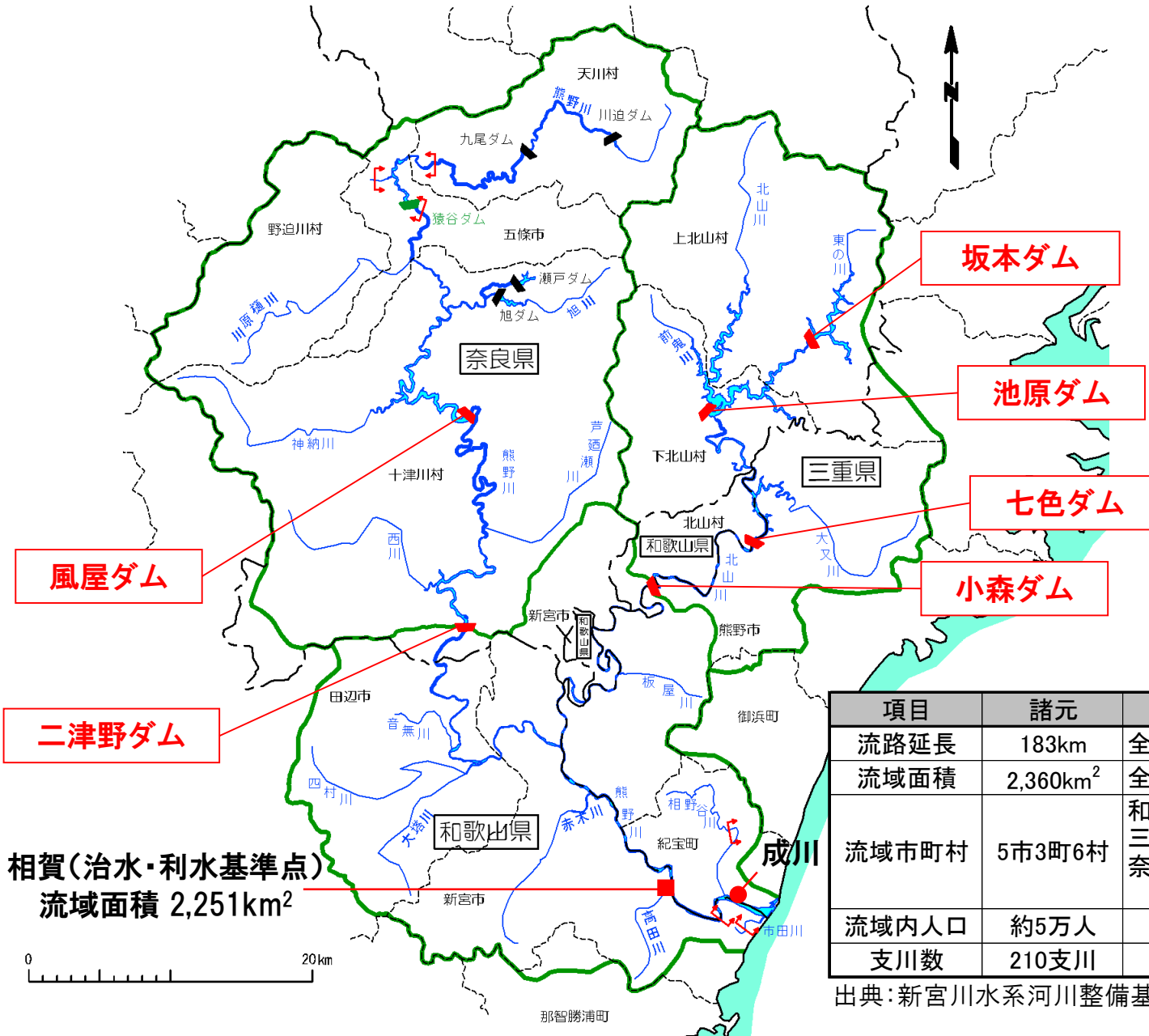


ダムの運用改善について

令和2(2020)年6月

電源開発株式会社 西日本支店

1. 新宮川水系の概要



流域面積

二津野ダム上流域	1,016 (801) km ²
小森ダム上流域	641 (564) km ²
ダム下流域	703 km ²
合計	2,360 (2,068) km ²

※()内は猿谷ダム、坂本ダムの流域を含まない流域面積(分水を考慮)。

凡例

- 熊野川流域
- ダム流域
- 基準地点
- 主要地点
- ▼ 電源開発(株) 管理ダム
- ▼ 国土交通省 管理ダム
- ▼ 関西電力(株) 管理ダム
- 県界
- 市町村界
- ↑ 直轄管理区域

相賀(治水・利水基準点)
流域面積 2,251km²

項目	諸元	備考
流路延長	183km	全国14位/109水系
流域面積	2,360km ²	全国26位/109水系
流域市町村	5市3町6村	和歌山県 : 新宮市、田辺市、那智勝浦町、北山村 三重県 : 熊野市、尾鷲市、紀宝町、御浜町 奈良県 : 五條市、十津川村、野迫川村、天川村、上北山村、下北山村
流域内人口	約5万人	
支川数	210支川	

出典:新宮川水系河川整備基本方針

2. 令和2(2020)年度出水期の暫定運用

【これまでの経緯】

- 当社は、熊野川の利水者として、池原・風屋ダムにおいて自主的に目安水位を設け空き容量を確保することにより、洪水を軽減するための措置を平成9(1997)年より講じてきました。
- 当社は、平成23(2011)年台風12号により熊野川流域において甚大な被害が発生したことを重く受けとめ、また、熊野川の河川整備の現状を鑑み、社会的責任の見地から、平成9(1997)年に設定した目安水位の低下を図り、更なる洪水被害の軽減に努めることとし、ダム運用の改善策による暫定運用を平成24(2012)年度出水期(平成24(2012)年6月15日)に開始いたしました。
- 暫定運用の検討は、当社が設置した「ダム操作に関する技術検討会」において、学識者および河川管理者のご意見・ご指導を仰ぎながら実施いたしました。

2. 令和2(2020)年度出水期の暫定運用

【令和元(2019)年度出水期における暫定運用の検証】

- 令和元(2019)年度出水期における暫定運用実績を踏まえ、その効果、課題等を整理し、令和2(2020)年度以降の運用のあり方を上記技術検討会にて検証いたしました。
- その結果、以下の事由により、**令和2(2020)年度出水期においても現行の暫定運用を継続し、放流量低減に努めます。**
 - 暫定目安水位※は、現在の気象予測技術、ダム の構造上の特性および下流利水者等への影響等を総合的に勘案して、当社が自主的に対応できる最大の設定をしています。※平成9(1997)年に設定した目安水位を平成24(2012)年度出水期から更に低下させた水位
 - 令和元(2019)年度暫定運用を検証した結果、出水の見逃しはなく、また暫定運用が有効に機能し、放流量をできる限り低減し流水を貯留できました。また、基準等の運用ルールに問題無いことを確認しました。
- 令和2(2020)年度出水期における暫定運用実績を蓄積し、引き続き、**次年度以降の運用のあり方を検証していきます。**

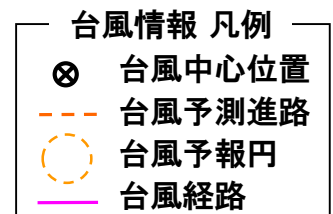
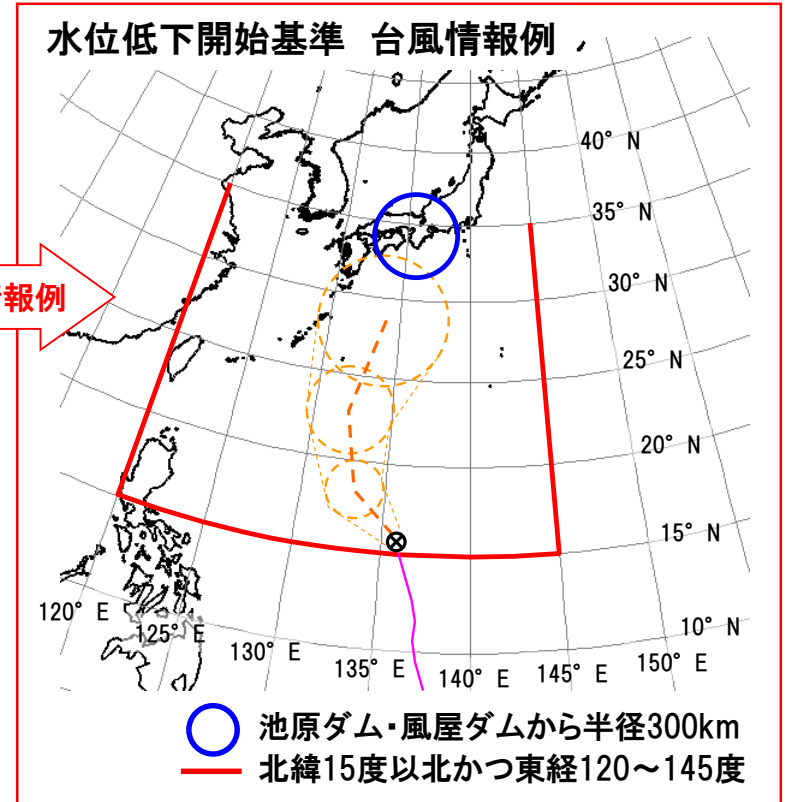
2.令和2(2020)年度出水期の暫定運用

ダム水位低下開始基準

➤ 下表の台風情報および降雨予測の条件に共に該当したときをダム水位低下開始基準とします。

気象庁 発表の情報		基準	水位低下開始基準① (2ダム共通)	水位低下開始基準② (池原ダムに適用)
台風情報	中心位置		北緯15度以北かつ 東経120～145度	同左
	予測進路		各ダムから300km以内 に接近	
降雨予測	長期降雨 予測値 (84時間)		200mm以上	500mm以上

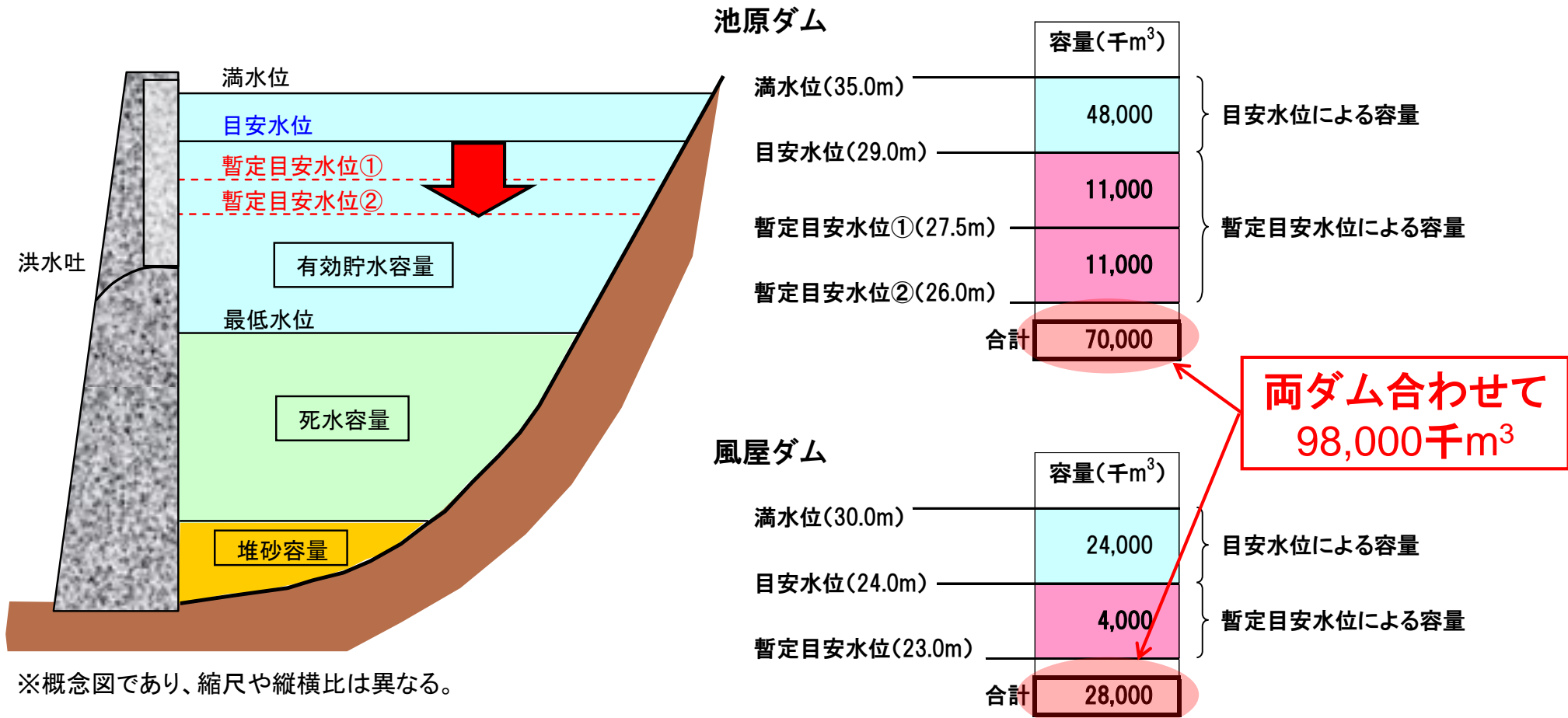
※ 台風情報は3時間毎、降雨予測は6時間毎に気象庁より配信される最新情報を適用します。



2.令和2(2020)年度出水期の暫定運用

ダムの空き容量

- 台風による大規模出水が想定される場合において、池原ダムおよび風屋ダムの貯水位を事前に低下させ、空き容量の確保に努めます。



※暫定目安水位:平成9(1997)年に設定した目安水位を平成24(2012)年度出水期から更に低下させた水位

2.令和2(2020)年度出水期の暫定運用

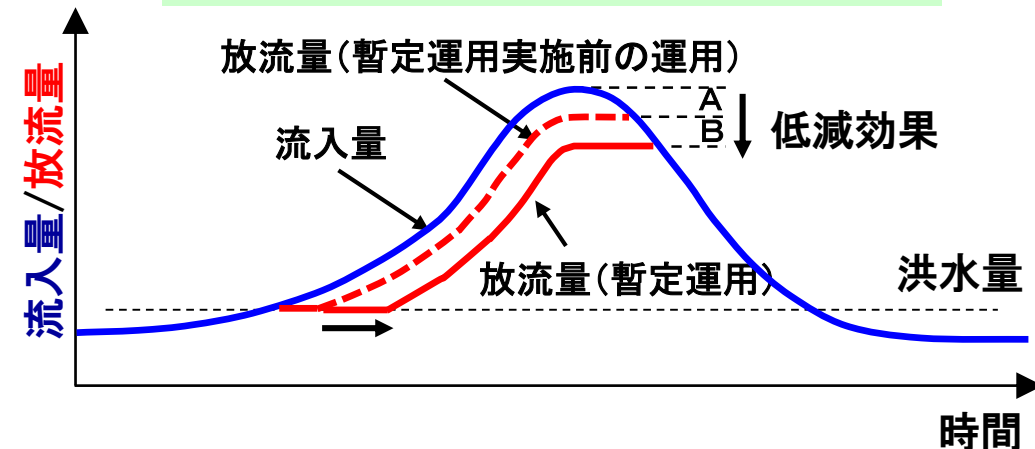
ダム水位の低下

- ダム水位の低下は、台風情報(中心位置、予測進路)や長期(84時間)降雨予測に基づき判断し、概ね出水の2~3日前に開始します。
- したがって、ダム水位低下のための放流は晴天時に開始する場合もあり、下流の観光事業・漁業・親水活動等に影響を及ぼす可能性があります。
- なお、池原ダムは予想される出水規模に応じて2段階でダム水位を低下します。

ダム放流量の低減

- 確保した空き容量を有効に活用し、洪水時のダム放流量の低減を図ります。

放流量低減効果のイメージ(池原ダム)



期待されるダムからの最大放流量の低減効果

	池原ダム	風屋ダム
最大流入量に対する低減効果(A+B)	約5~50% [約20%]	約5~30% [約5%]
暫定運用実施前の運用に対する低減効果(B)	約0~25% [約10%]	約0~15% [0%]

※ダムへの流入規模等により低減効果は異なります。

※[]内の数字は平成23(2011)年台風12号の低減効果

3. 令和元(2019)年度出水期の暫定運用(実績)

- 令和元(2019)年に発生した24台風のうち、台風10号、19号及び20号が水位低下開始基準①に該当し、水位低下開始基準②には該当しませんでした。
- 台風10号においてダム流入量が洪水量1,500m³/s以上の洪水となり、空き容量を有効に活用して放流量を低減しました。台風10号において、日足地点では約1.3mの水位低減効果があったと試算されています。

台風10号及び19号時の放流量低減効果

	台風10号		台風19号		(台風20号※2)	
	池原ダム	風屋ダム	池原ダム	風屋ダム	池原ダム	風屋ダム
最大流入量 (m ³ /s-h)	1,913	2,607	683	901	346※2	166※2
最大流入時の放流量 (m ³ /s-h)	1,028	2,128	255	384	389※2	108※2
低減量 (m ³ /s-h)	885 (▲46%)	479 (▲18%)	428 (▲63%)	517 (▲57%)	—	—
日足地点水位低減量 (m)※1	約1.3		—		—	

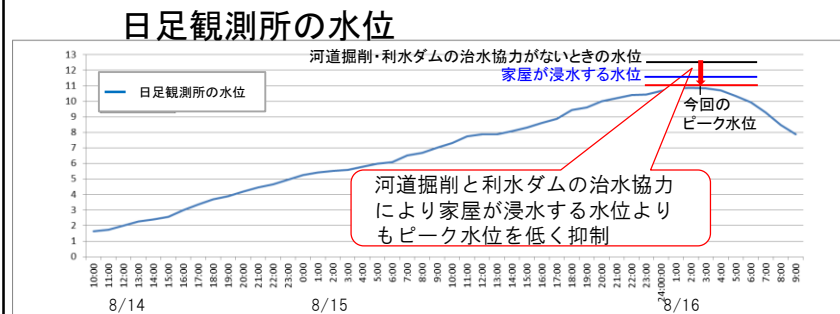
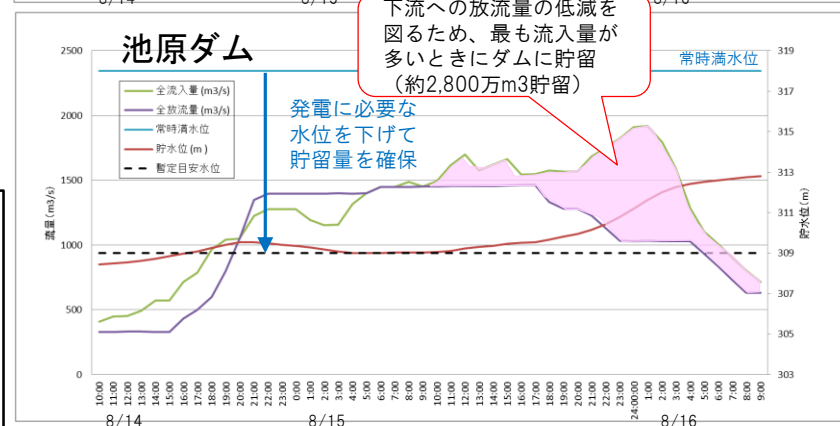
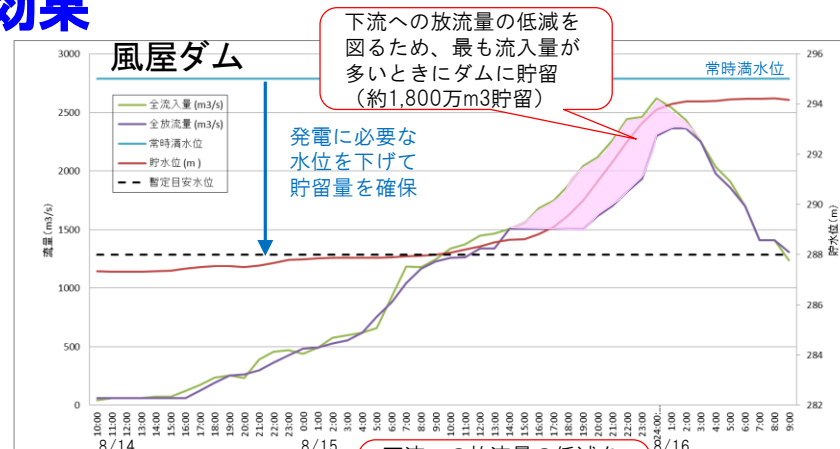
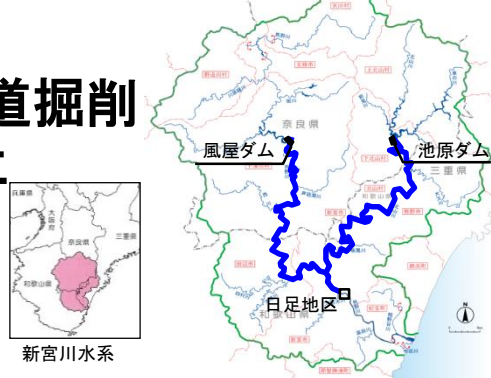
※1: 日足地点水位低減効果は国土交通省近畿地方整備局殿による試算。

※2: 台風20号は水位低下開始基準①(暫定運用)を解除し、その11時間後に最大流入量となったことから上表は参考値。

3. 令和元(2019)年度出水期の暫定運用(実績)

◆ 日足地点(和歌山県新宮市)における水位低減効果

- 台風10号での池原・風屋ダムの洪水軽減対策による日足地点の水位低下について、国土交通省近畿地方整備局により試算が行われています。
- その試算結果として、河道掘削とダム暫定運用の効果により、日足地点は **約 1.3m 水位低下**



治水事業や利水者の協力により、約1.3m水位が低減した。結果、家屋が発生する水位まで上がらなかったことにより、家屋の浸水被害を回避できたと推定

20.2k

家屋浸水被害無し
農地浸水は調査中

河道掘削無し・利水ダムの治水協力無し12.3m

約1.3m水位低下

河道掘削有り・利水ダムの治水協力有り
(今回の出水の最高水位11.0m)

家屋浸水が発生する
水位11.3m

※数値等は速報値ですので、今後の精査等により変更する場合があります。

3. 令和元(2019)年度出水期の暫定運用(実績)

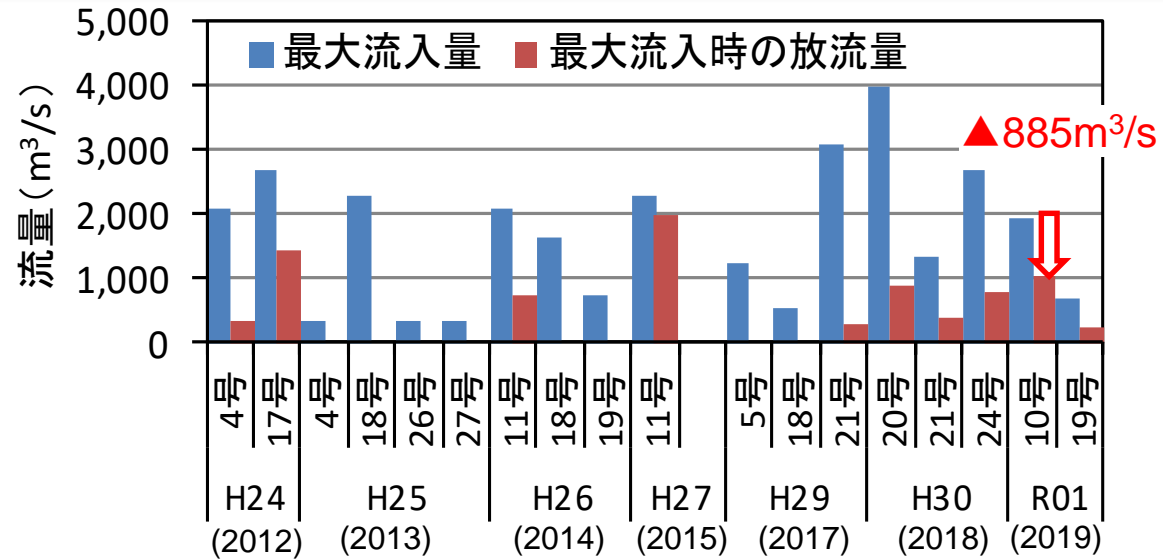
対策実績

- 期間:平成24(2012)年6月～令和元(2019)年10月
- 台風発生数:206
- 対策回数:18台風
(毎年平均で2～3回実施)

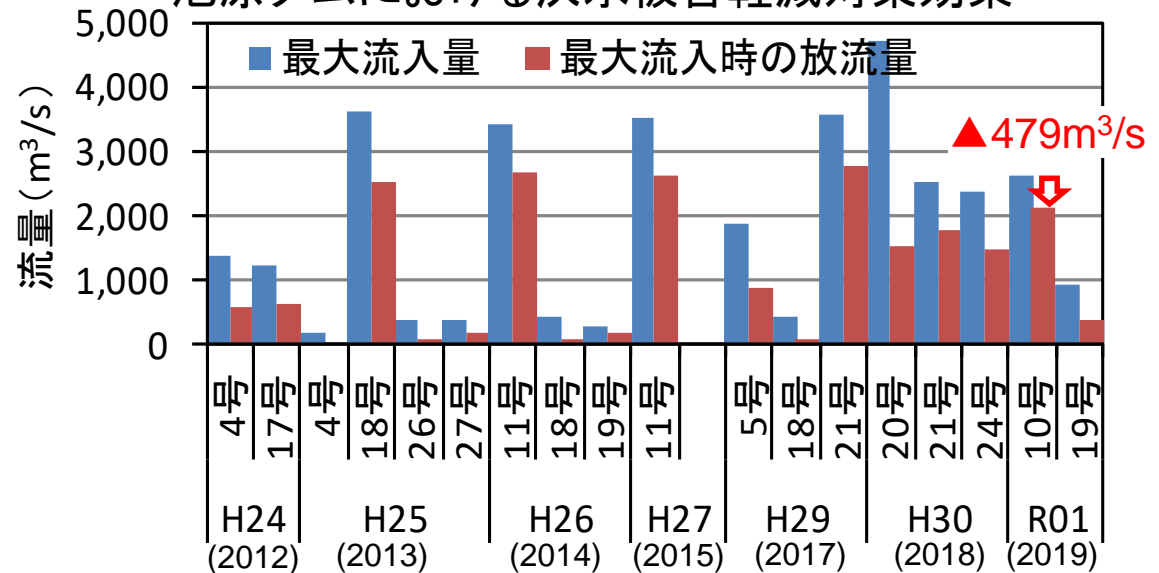
対策効果

- 対策実施時は、池原ダムと風屋ダムで放流量を低減
- 令和元(2019)年台風10号において、2ダム合計で最大流入時の放流量を約1,360m³/s低減し、日足地点で約1.3mの水位低下効果※1

※1 近畿地方整備局殿にて試算、河道掘削と合わせた効果



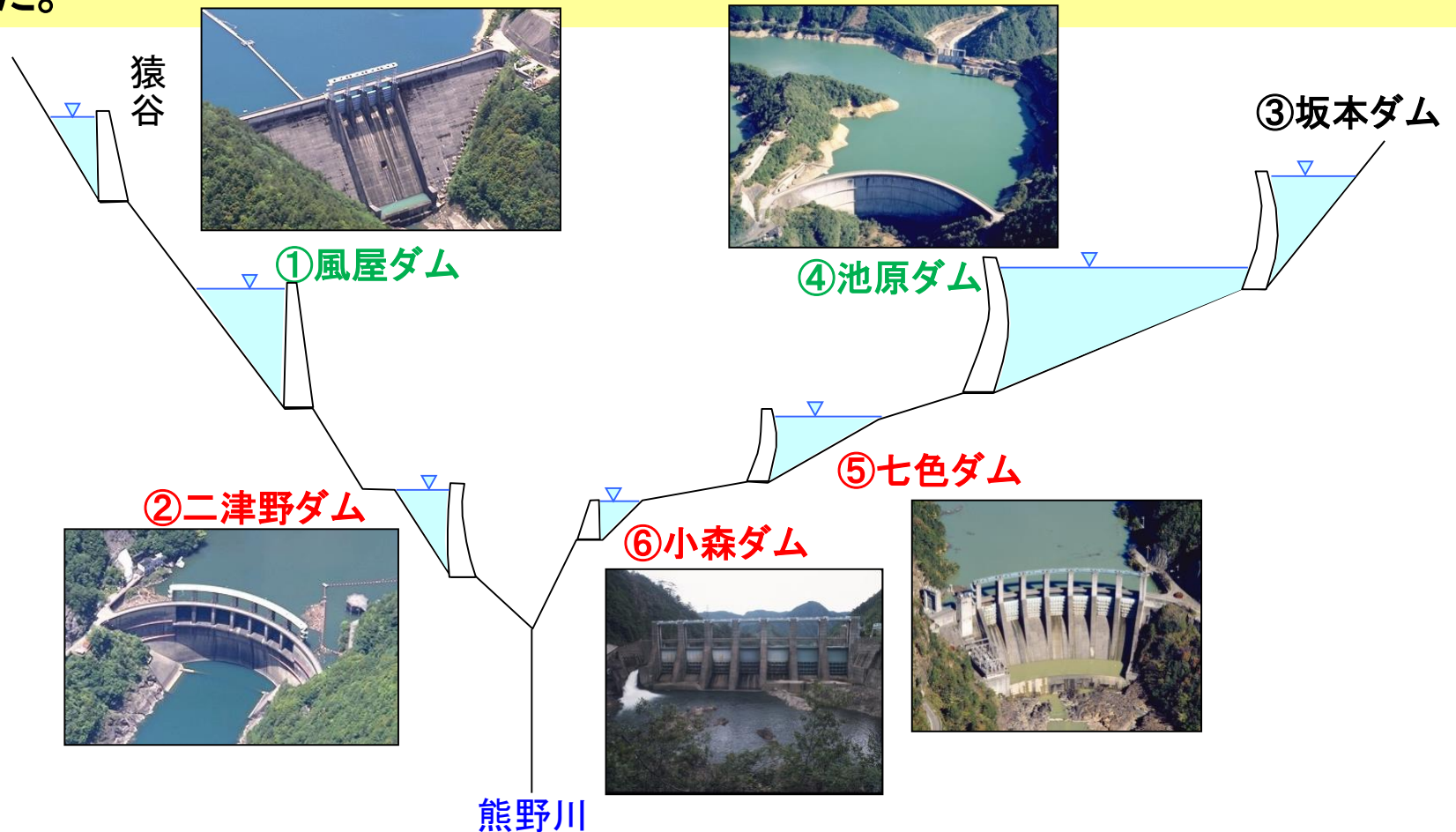
池原ダムにおける洪水被害軽減対策効果



風屋ダムにおける洪水被害軽減対策効果

4. 二津野・七色・小森ダム放流量低減の運用

出水規模が十分小さく、降雨・流入量予測から十分な空き容量があると判断できる場合に、二津野・七色・小森ダムが個別に空き容量を利用して、ダム放流量を低減することに努めます。これらの対応は、降雨・流入予測等に基づき実施していきます。なお、令和元(2019)年台風10号における二津野・七色・小森ダム放流の低減量は、其々19, 8, 10m³/sでした。



5. 降雨・流入量予測に関する検討

下表のとおり、更なる放流量低減に向けて、降雨・流入量予測の高度化に取り組みます。

全体スケジュール

項目	平成23 (2011)	平成24 (2012)	平成25 (2013)	平成26 (2014)	平成27 (2015)	平成28 (2016)	平成29 (2017)	平成30 (2018)	令和元 (2019)	令和2 (2020)	令和3 (2021)	令和4 (2022)	令和5 (2023)
1) 暫定運用の検証		▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▼	▽	▽	▽
2) 降雨・流入量予測													
① 降雨予測の高度化													
・GSMの配信	評価	本格配信(継続)											
		GSM補正情報		検討	試行配信			本格配信(継続)					
・MSMの配信	評価	本格配信(継続)											
			MSM補正情報		検討	試行		本格配信(継続)					
・LFMの配信			LFMガイダンス情報			検討	試行		本格配信(継続)				
② ダム流入量予測 予測情報の配信		システム開発			試行配信			本格配信(継続)					
3) 更なる放流量低減		検討	試行(中小規模出水を対象)				検証・評価		二津野・七色・小森ダム運用継続				

(LFM : Local Forecast Model、MSM : Meso-Scale Model、GSM : Global Spectral Model)

6. 情報伝達の改善

➤ 当社は、「ダム操作に関する技術検討会」の中間報告以降、河川管理者および関係自治体と協議・調整を図り、情報伝達の改善に取り組んでいます。

➤ 以下の項目については、既に対応が完了しております。

- ・ 新宮川水系各ダム情報(フリーダイヤル)の回線増強
- ・ 情報伝達ルート多重化(無線通信のルール化、衛星電話の設置)
- ・ インターネットによるダム情報の提供(国土交通省が管理・運営するインターネットサイト「川の防災情報」への当社ダムの情報を掲載)
- ・ サイレン吹鳴、放送アナウンスの可聴範囲調査(警告目的を概ね満足)
- ・ 放流に関するパンフレットの配布(平成27(2015)年8~9月再配布)
- ・ ダム放流説明看板の更新(平成29(2017)年8月完了)
- ・ ダム放流の通知・通報の改善(平成31(2019)年3月完了)

➤ 引き続き、河川管理者、関係自治体および当社が連携して情報伝達に取り組めます。